



2004年 あけましておめでとうございます

さて今年は申年，“サル”とひとくちに言っても何種類いるか皆さんはご存知ですか？一番大きなマウンテンゴリラから人の手のひらに乗るような小さなピグミーマーマセットまで世界には約180種の仲間がいます。今回は、動物園で一番の人気者（！）であるサル島のアカゲザルのお話をさせていただきます。申し遅れました、私は「アサタロー」と申します。年齢は10歳、サル島の中で一番大きくて毛並みもりっぱなオスなので見ればすぐにおわかりになると思います。アカゲザルは群れで生活しておりますが、オスには大人になる前に生まれた群れから出ていき別の群れに入ったり新しい群れを作ったりしなければならぬ宿命にあります。私もその宿命に従い平成7年2歳の時に広島県の安佐（あさ）動物公園から京都にやって来ました。そして、アサタローというすばらしい名前をいただきました。平成10年5歳の時には、当時の第一位オス「ショータロー」と闘争の末に第一位オスとなり、今もその座を守り続けております。動物園では群れで一番強いオスを昔は「ボスザル」と呼んでいました。しかし、メスを中心にした母系社会になっており、血縁関係のあるメス同士のつながりはとても強いものがあります。移動や休憩など行動を共にすることが



『アサタロー』

多く、ケンカになると加勢に入りひどい時には家族対家族の争いになることもあります。そのような社会構成から、私の役割が「ボス」的ではないとの見方から呼び方が変わってきているようです。

現在サル島には9つの母系からなる約50頭が暮らしておりますが、今の第一位メスは一昨年母親である「アオイ」からその座を実力で奪い取った「ツボネ」という5歳のメスです。彼女は顔つきも鋭く体も大きくて、堂々と歩く姿はなかなか風格があり私も負けそうなくらいです。また、みんな名前が付いていますが、血縁関係がわかりやすいようにアオイの子供はトノ・ツボネ・ヒメ、ブルースの家族はリズム・タンゴ・ジルバ・ボサノバ、面白いところではコロケの子はテンプラと母系の名前に関連して名付けられています。サル島に来られた時には、ぜひ名前を呼んでみてください。ひょっとしたら呼ばれたサルが手をあげて振り向くかもしれませんよ？まだまだお話したい事はたくさんありますが、また別の機会にしましょう…

それでは、皆様にとって良い年になりますようにサル島のとっぺんからお祈りしています。

できごと

誕生！

☆ハリネズミ

10月9日に4頭の赤ちゃんが生まれました。

赤ちゃんにもお母さんと同じハリがちゃんとあるんですよ！



☆ 傷ついて野生に戻れなくなった

～アカショウビン～

平成15年6月10日に亀岡市で救護され、翌日、野生鳥獣救護センターに運び込まれました。元気にはなったものの、右上腕部の中ほどから先を失い飛べないため、野生に戻ることができなくなり、動物園で飼育ボランティアを引き受けることになりました。

『動物園の仲間入りです。みんな会いに来てね！』



よろしくね！

